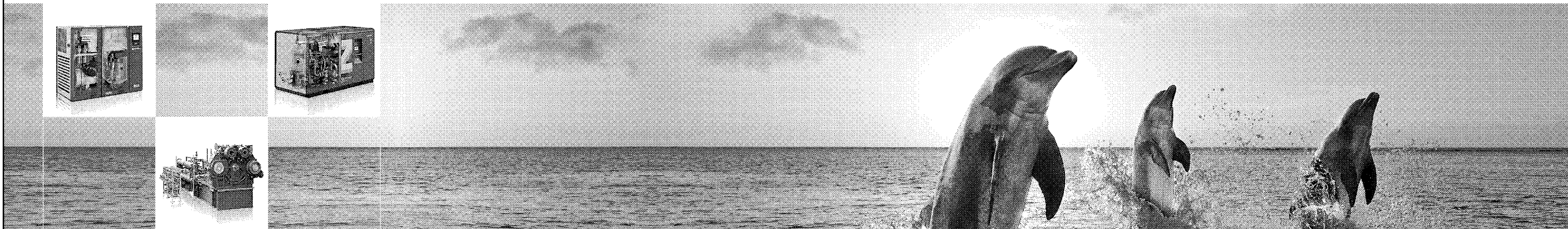


空気もトータルコストも、そして環境負荷も、賢く圧縮できる。



次の世代へ繋げるモノづくりをサポート。アトラスコブコのコンプレッサ。

私たちアトラスコブコは140年近くの歴史と経験を持ち、日本においても100年の販売実績があります。世界170カ国以上へ事業を展開する世界規模の産業機械企業グループです。世界最大級のコンプレッサ部門では、独自の技術に裏打ちされた多彩なラインアップをそろえ、お客様の様々な用途に対応しています。高い省エネルギー性を実現したVSDインバータ制御とMDDドライバ、そして空気中へオイルの排出を抑える世界最高水準のシステム開発など様々な環境性能を搭載。高いエネルギー効率と経済性を備えたベストなプランを提案いたします。

- ◇5.5kW～900kWまでの幅広いレンジに対応
- ◇最小のエネルギー消費で最大効率を発揮するインバータ制御
- ◇圧縮排熱の利用で稼働するMDDドライバ
- ◇プロセス用のコンプレッサも多数用意

- ◇工場内環境を考慮したエコロジー設計
- ◇インバータやモータをコンパクトに内蔵
- ◇オイルフリータイプはクラスゼロ認証エア(ISO8573-1)*

*ISO8573-1(2001)とは、圧縮空気の潔浄度の表示を定める規格です。

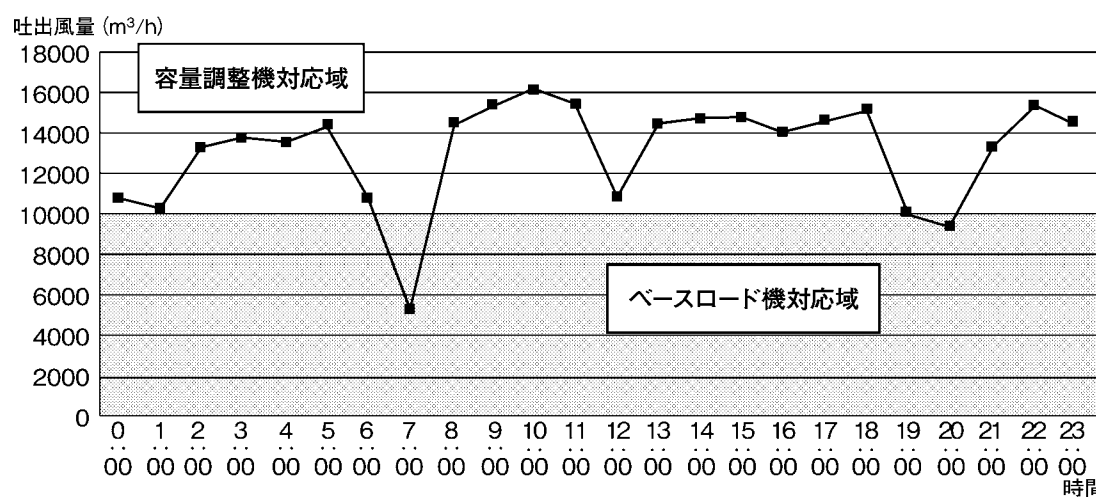
アトラスコブコ株式会社 コンプレッサテクニーク 〒105-0014 東京都港区芝2-13-4 住友不動産芝ビル4号館 TEL:0120-996-046 <http://www.atlascopco.co.jp>

Sustainable Productivity

Atlas Copco

市場ニーズに応え産業分野で活躍する コンプレッサー

図1 ベースロード/容量調整領域区分サンプル



定を行つことが重要である。一般的にコンプレッサは、その用途により一定流量を効率よく吐出するベースロード機と、空気需要の変動に追従する容量調整機に分類される(図1)。

IHI回転機械では、ベースロード機と容量調整機の違いを踏まえた上で最適機種を選定し、運用することが最も有効であると考え、以下にそれぞれの特徴を述べる。

(1) ベースロード機

工場の稼働時には、一般的にある一定以上の空気需要(ベース)があり、この領域をカバーするコンプレッサについて、100%負荷時に最も効率よい(動力原単位の良い)コンプレッサを採用するべきである。このベースに対して何台のコンプレッサを設置するかについては、コンプレッサの吐出容量による効率差、万一の緊急停止時のバックアップをどのように対応するかなどで決まってくる。大型機を少ない台数(1台または2台)で設置する場合、予備機が大型化して設備容量が増える一方、大型機の効率の良さや配管・配線を含めた設置工事費用や導入後のメンテナンス費用を減らすことができるなどのメリットがある。

(次ページに続く)

コンプレッサの分類について

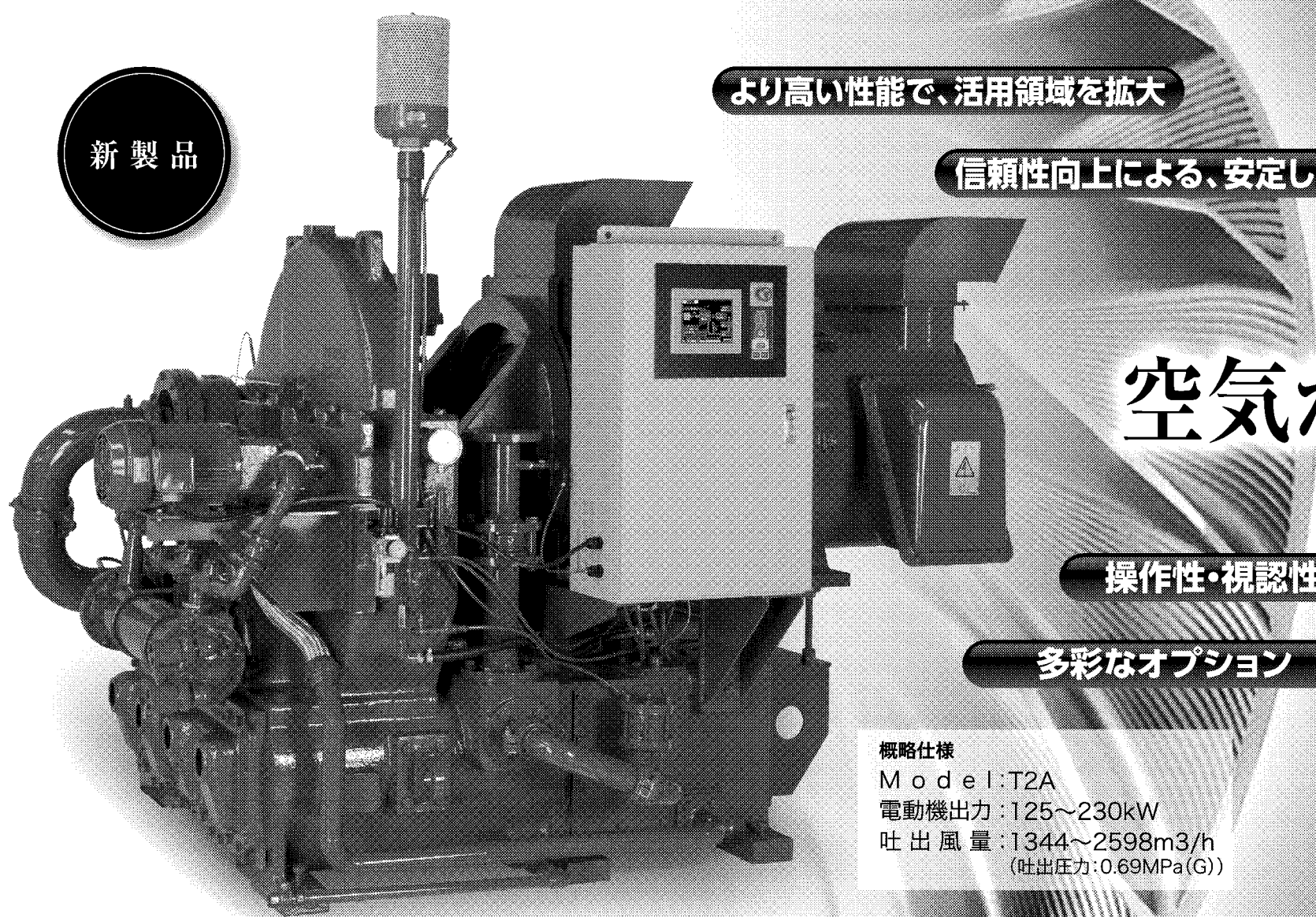
(ベースロード機・容量調整機)

コンプレッサ設備の最適化について

2011年3月の東日本大震災で発生した福島第一原子力発電所の事故により、一部を除き各地の原子力発電所は停止を余儀なくされ、電力の供給不足に対する不安が高まっている。これに伴う電力不足を補うため、火力発電所をはじめとする高コストの発電設備の稼働による電力料金値上げが企業収益を圧迫し始めており、省エネルギーへのニーズはこれまでにないほど大きくなっている。この状況下で、生産工場の総消費電力の約2/3割を占めるといわれるコンプレッサ設備の省エネルギー化が再び注目を集めている。オイルフリーコンプレッサを中心とした総合コンプレッサメーカーである当社の取り組みを解説する。

IHI回転機械における省エネルギー化の取り組み・提案

IHI回転機械 汎用圧縮機営業部
部長 後藤 浩一



より高い性能で、活用領域を拡大

信頼性向上による、安定した運用

操作性・視認性の向上

多彩なオプション

概略仕様
Model: T2A
電動機出力: 125~230kW
吐出風量: 1344~2598m³/h
(吐出圧力: 0.69MPa(G))

IHI

Realize your dreams

1970年、日本最初の汎用ターボコンプレッサを発売。

以来、IHIはターボコンプレッサのリーディングカンパニーとして、世界中で数多くの実績を築いてきました。

T2シリーズはIHIの豊富な実績、そして環境を考慮した最先端技術を搭載。

いま、世界の空気をリードし、新たなエア・ソリューションを提案します。

空気が認めた、最新鋭ターボ。

T2 series
Turbo Compressor